

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

南本小の子  
 ～私たちがともに学ぶ、「緑豊かなこのまち」の学校の子どもたちを～ [公]  
 とともに明日をつくる子  
 ～つながりあう「自分たち」の思いと力で、明日の社会を変えていけると信じ、～ [徳・開]  
 楽しみ学び続ける子  
 ～どんなときでも前向きに、楽しみながら学び続け、生き抜いていく人へと育みます～ [知・体]

教育課程全体で  
育成を目指す資質・能力

＜持続可能な社会の創造に貢献する力＞ ＜自分づくりに関する力＞	具体化した資質・能力
	「身近な事象に積極的に関わる態度」「自分なりのイメージをもつ力」 「自立的に考える力」「思いや考えを表現する力」「思考するための言葉の力」 「思いや考えを伝え合う力」「批判的に考える力」「多様性を尊重する力」

中期取組目標

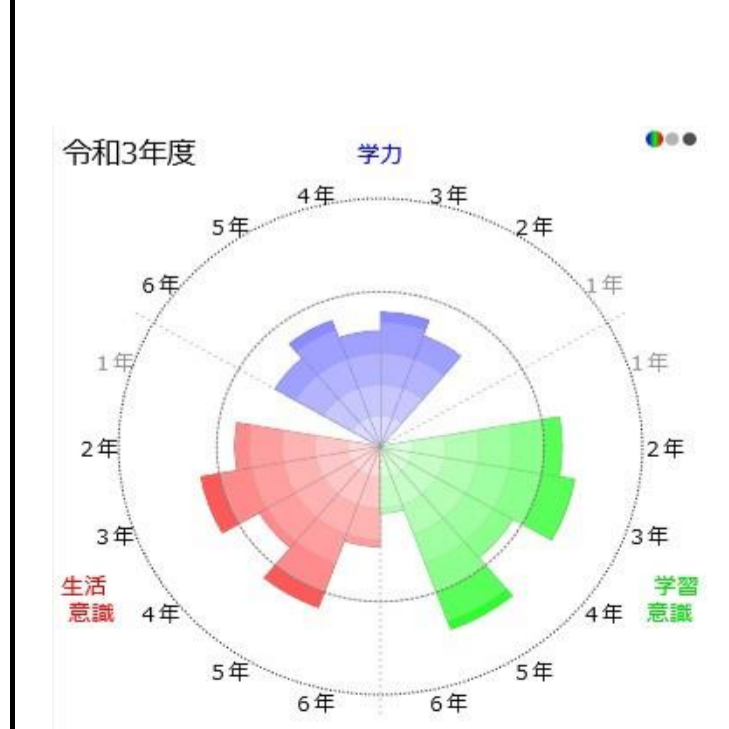
○全職員が「チーム南本」として、ESDや自分づくりに関する力を育む教育に取り組むとともに、子ども一人ひとりの思いを大切にされた学校づくりを目指す。  
 ・「持続可能な社会の創造」と「自分づくり」に関する資質・能力を核とし、その実現スキルとして「情報活用能力」を位置付けたカリキュラム・マネジメントを引き続き実施し、さらなる発展を目指す。  
 ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実と、体験的な活動などを取り入れた授業づくりを推進し、主体的な学びの力の向上を目指す。  
 ・一人ひとりの子どもが自己有用感を持ち、安心して楽しい学校生活を送ることができるようにする。  
 ・家庭、地域との連携方法を工夫し、積極的な参画を得て、地域に愛される学校づくりを進める。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	校内授業研究等においても、育てたい資質・能力を明確にした授業に取り組み、教師の授業力の向上を目指す。
担当	重点研推進部

学力向上に関わる本校の状況

令和3年度の学力学習状況調査結果では、学力・学習意識・生活意識とも3・5年が高い。教科別では全般に国語の「思考」が低い傾向がある。令和3年度の重点研究では、タブレットの活用などにより、「思いや考えを表現する力／伝え合う力」の育成を図ることができたが、国語は他教科・領域との関連が深く、言語活動の根幹でもあるので、「思考するための言葉の力」なども含め、引き続き育成を図る必要がある。  
 一方、研究主題「持続可能な社会のために自分の考えを進んで表現できる子どもの育成」に沿って、ESDを意識した単元づくりが行われるようになった。今後も学校や地域の特色を生かした教育を展開していきたい。



今年度の目標

「思いや考えを表現する力・伝え合う力」「思考するための言葉の力」の育成を通して、思考のスキルを高め、学習や日常の問題解決に生かす。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
① 思考の「見える化」をはかること 思考ツールを使うことで考えを整理しやすくなる良さを。身近な課題について簡単なルーブリックを作ること、活動の見直しをもてる良さを。② 思考を共有したり、表現したりするためのツールとして、ICT機器を適切に活用すること 調べ学習だけでなく、考えたことを共有したり表現したりするツールとして、学習過程を工夫し、タブレットを有効に活用する。 ③ 学習と日常との「ブリッジング*」をはかること (*日常生活から学習課題を見つけ、その解決を通して学んだことを生かして再び日常をとらえ直すサイクル) 日常生活と結びつけた問題や、生活科や総合的な学習の時間の中で、教科の学習で得た知識や考え方を生かせるようにする。	① 思考の「見える化」を工夫すること 学年や教科・領域、学習内容に応じて、適切な思考ツールを使うことで、自分の考えを整理しやすくなる。必要に応じてルーブリックを作ることを通して、課題解決の見直しをもてるようにする。 ② ICT機器を適切に活用しながら、人との関わりの中で伝え合う力や表現力を高める。 思考を共有・表現するツールとして、タブレットも活用しながら、ペアやグループでの学習を通して、協働的に学ぶことで、伝え合う力や表現力を高める。 ③ 学習と日常との「ブリッジング*」を重視すること 教科の学習で得た知識や思考を、他の教科・領域や日常の場面で活用できるようにする。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
人権教育	子ども会議のテーマを基に、人権についての話し合いや取組を学校全体で進め、子どもたちが安心して学べる学校風土の醸成に繋げる。
担当	道徳部

豊かな心に関わる本校の状況

(1) 豊かな心に関わる児童生徒の実態  
 現在、新しい生活様式の中で、コミュニケーションが取れなくなっている現状がある。しかし、できる限りの行事(校外学習や水田活動など)や体験を通して、前向きに人と関わろうとしている児童が多いことが、生活意識調査で分かった。そうすることで、学習へと広がり、さらにたくさんのお話を伝え合うことで、豊かにコミュニケーションをとれている。  
 (2) これまでの学校の取組状況  
 上記にもある通り、現在、新しい生活様式の中で、コミュニケーションが取れなくなっている現状がある。その中で、キャリアパスポートの活用を推進し、各クラスや個人で行った取組を掲示することで、交流を図った。人権週間の取組では、互いのクラスで話し合ったことなどをタブレットに動画で撮って、学年やブロックで共有してきた。今後も、できる限りの共有の仕方を模索して、交流を深めるようにしていきたい。

今年度の目標

新しい生活様式における、心と心をつなぐような取組を行う。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
○きょうだいグループ活動を充実させるなど、異年齢とのつながりの場を設ける。また、幼稚園・保育園・中学校との連携を進め、児童との交流の場を意図的、計画的に作る。 ○Y-Pアセスメントを年2回実施し、児童や学級の実態を把握する。課題改善に向けて学年やブロック、学校としての指導体制を整え、「だれもが」「安心して」「豊かに」過ごせる学級風土作りを努める。 ○日々の道徳の授業において、授業での振り返りの時間を充実させ、見方・考え方の広がりや深まりを目指す。 ○各学年の年間指導計画を活用し、他の教科領域をはじめ、全校で取り組む教育水田活動とも連動させながら取り組む。また、全学級の道徳授業公開を年一回以上実施する。 ○キャリアパスポート	○生活科や理科等の教科領域をはじめ、南本フェスティバル(水田活動まとめ)での学習会や校外学習など、児童が土や植物・昆虫・小動物・魚などに親しむと共に、田んぼに息づく様々な生き物たちにふれる機会を多く作る。 ○人権週間において、実態に合った横浜プログラムを選択し、教科等にも取り入れて目的を意識しながら実施することで、社会的スキルの育成を図る。 ○キャリアパスポートの活用により、自分の成長を実感し、学びへの意欲につなげる。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	子どもたちが楽しみながら運動することができるよう体育科の授業改善を図るとともに、体育的行事や集会の子どもたちのアイデアを生かした運営を目指す。
担当	体育部・保健部

健やかな体に関わる本校の状況

令和3年度の体力テストは、コロナ感染症対応のため全種目は行わず、反復横跳び、20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳びのみを行った。全体的に見て、今年度は市や全国の平均を、ほとんどの種目で超えていた。  
 しかしながら、今年度は近隣校の実施状況を聞いてみると、実施した種目もまちまちであり、ここ2年間の体育の実施種目も、学校によって違っている。比較する母数が以前とは全く違っているため、この体力テストの結果から、現在の本校の子どもたちの体力の状況を正確には把握できない。  
 休み時間の子どもの様子を見ると、ボール遊びが可能な状況では、本校は大変遊びを好んで行っている子どもたちが多く、放課後にも近隣の公園で遊んでいる子どもたちが多く見られる。  
 運動に関しては、今後、子どもたちが一層、「楽しんで」「主体的に」取り組んでいけるように授業の仕方、体育的行事の行い方を工夫していく必要がある。  
 また、保健体育の面でも、コロナ感染症対策として日々行っている手洗いも、子どもたちは非常に頑張っている様子が見られる。安全に関しても、「かもしれない運動」を令和3年度は行い、特に校内での衝突事故が起きないように、保健委員会を中心に、全校で取り組んできている。

今年度の目標

体育科の授業改善や体育的行事等の工夫を通して、子どもたちが楽しんで運動することができるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
① 運動の特性を理解した授業改善 ・体育の各種目の運動の特性を教師が理解し、主運動につながる慣れの運動を行うなど、授業の改善を研修等を通して教師が学び、授業実践に生かしていく。 ・過去2年間のコロナ禍の中で十分身に付けられていない基礎的な知識・技能を補いつつ、当該学年の学習に取り組むことができるように、授業構成を工夫する。 ② 体育的行事計画への子どもたちの参加 ・体力アップ集会等の計画に子どもたちが参加し、体育的行事へ主体的に参加できるようにしていく。 ・後期の運動会に向けて、子どもたちが行事に対して、自分たちの意見を進んで出すことができるようにしていく。 ③ 健康教育の充実 ・水泳学習の実施前などに、機会を捉えてプライベートゾーンについて学ぶ時間を設定していく。 ・保健体育学習などを通して、健康教育の充実を図る。	① 運動の特性を理解した、さらなる授業改善 ・1単位時間の中で十分な運動量が確保されていることや、評価基準が子どもたちと共有されることなどを目標とした授業改善を行う。 ・運動の系統性を理解し、低学年から高学年へのつながりを意識したカリキュラムマネジメントを行う。 ② 体育的行事計画への子どもたちの参画 ・運動会等の計画に子どもたちが参画し、体育的行事へ主体的に参加できるようにしていく。 ③ 健康教育のさらなる充実 ・保健体育学習などを通して、健康教育の充実を図る。